

共通乗車カードへのICカード活用に関する調査研究

1 調査の概要

本調査は、公共交通機関の利便性・快適性の向上を図るため、非接触ICカードによる共通乗車カードシステムに関する開発コンセプトの確立を目的としている。

平成8年度は、作業の第1段階として非接触ICカードを使用した鉄道用定期乗車券の基本的なシステムコンセプトを検討・整理した。平成9年度は、前払式乗車券と非接触定期券の併用化及び複数事業者間の共通乗車システムの開発コンセプトの検討を行い、これに対応して国内の現行磁気式共通乗車カードシステムの事例調査、鉄道・バス事業者に対する共通乗車カードについてのアンケート調査、共通乗車カードを導入した場合の利用旅客数を推定するシミュレーションプログラムの開発、及びヨーロッパ及び香港における非接触ICカード利用に関する先進事例の調査を実施した。

2 非接触ICカードを利用した共通乗車カードシステムのコンセプト

非接触ICカードを利用した共通乗車カードシステムが実現し、定期券と前払式乗車券(SF乗車券)の機能を1枚のカードに収納すれば、異なる事業者間や鉄道・バス等の異なる輸送モード間でも同一カードで乗降できるようになり、公共交通機関の利便性・快適性の向上が図れる。さらに、将来的には電子マネーの機能を付加することも視野に入れた多機能・多目的な汎用電子乗車券を目指している。

このシステムは利用者にとって、カードをかざすだけで利用できる、定期区間を乗り越した際の精算処理が不要とな

る、現金を積み増すことで何度でも利用できる、ラッシュ時の改札における混雑緩和、小銭の煩わしさが少ないなどのメリットがあり、一方、事業者側にも、券売機等での金銭の準備の軽減、従来型の磁気式機器の搬送部の保守費の削減、運賃領収のためのコスト軽減、バスにおける停車時間の短縮などのメリットがあることから、システム導入は利用者及び事業者双方に多くの利便をもたらすと考えられる。

3 都営地下鉄12号線での実証試験

本調査で策定されたコンセプトに基づき、「汎用電子乗車券技術研究組合(本調査と連携を取りつつ共通乗車カードの具体的な技術仕様の検討を行っている、通称:TRAMET)」が、都営地下鉄12号線及び都営バス(新宿営業所所轄)において、非接触ICカードを使った実証試験を平成10年6月より1年間、モニターを募集して実施する。

4 非接触ICカードシステム導入に向けて

平成10年度は、これまでに検討したシステムコンセプトを基本にして、本格的な導入に向けて、システムの中で共通化すべき項目の提示、デポジット(カード保証金)の導入やセキュリティ、プライバシー確保など諸課題について検討を進める。また、並行して、金融カード等との併用化の検討や、インターネット等を利用した利用者のニーズ調査を行う。さらに、導入による利用者の便益、事業者のコスト節減効果を具体的に提示するなどして、共通乗車カードの普及促進に資する方策、データの整備を行うこととしている。

(要約:山本 努)

この号の目次へ <http://www.jterc.or.jp/kenkyusyo/product/tpsr/bn/no01.html>